

〈論 説〉

中国ネット社会の定義、特性及び対する見解

— 関連文献の整理

石 巍

はじめに

世界中の情報処理や通信技術などの発展により、20世紀90年代頃からパソコンとインターネットが一般中国人の家に浸透し始めた。特に2000年以来、中国に於いてIT産業が急速に発展し、インターネットの利用者が毎年激増している。インターネット通信技術は人々の日常生活に様々な便利をもたらしてきた。同時にネット依存やネット犯罪、不正利用など様々な問題を引き起こして、リアル社会に悪影響を与えてしまった。現時点で全国民の約半分がインターネットの利用者であることと、さらに発展していく見込みを踏まえて考えると、インターネットあるいはネット社会に対するガバナンスは、ネット社会未来のあり方については中国の持続可能な発展に深くかかわっている。

公平的公開的安全で、お互いに貢献し信頼できるプラットフォームを提供し、みんなの生活に便利をもたらすネット環境を造るために、政府や多くの学者たちがインターネット及びネット社会に対してガバナンスすることを主張している。

しかし、ネット社会の公共管理対策を検討する前に、まずネット社会の定義と特性、特にネット社会の本質に対する見解をはっきりする必要がある。実際、中国語の文献では、ネット社会という言葉が多く英語の単語に対応している。それぞれの区別が微妙で、混用されることが多い。また、

ネット社会の本質に対する認識の差異によって、様々な管理対策が出てくる。というわけで、本稿では中国ネット社会の定義、特性及び対する見解に関する文献を整理する。

1 ネット社会について

1.1 ネット社会の定義

中国語の文献では「**網絡社会**」という言葉が少なくとも「**ネットワーク社会 (Network society)**」と「**サイバー社会 (Cyber society)**」と「**インターネット社会 (Internet society)**」の3つの単語に対応している。

裘偉廷によると、「**網絡社会**」について学界には2種類の構築ロジックがある。一つはNetwork societyであり、もう一つはInternet societyである。前者は社会のネット化というロジックを重視し、文化の影響下にある形態の多様性を注目する。後者は技術の決定的な作用を重視し、ネット空間とリアル空間の間の差異を注目するという。ⁱ

王冠によると、関する文献に対して整理した結果は、「**網絡社会**」の意義が2種類に分類できる。一つは、リアル空間として、一種の新たな社会構造形態であり、即ちNetwork societyである。もう一つは、インターネットを基に構築されたコンピュータ・ネット空間であり、即ちCyber societyである。ⁱⁱ

中国語で同じ言葉であるけれども、それぞれは違う物を指し、区別が微妙であるから、混用されることが多い。例えば、2001年1月20日の『**人民日報**』に乗せられた「**政府推动：中国情報化の要**」(政府推动：中国信息化的**关键**)という記事には、「政府と企業のオンライン化を通して、学校と家庭のオンライン化を促進し、**網絡社会**を形成する」と述べてある。こちらの「**網絡社会**」はNetwork societyを対応している。しかし2001年4月6日に、同じく『**人民日報**』に乗せられた「**ネット社会では誠実と信用が必要か**」(**网络社会还需要诚信为本吗**)という記事には、「**網絡社会**は我々

の接触する真の社会と違って、より多くのはバーチャル世界にとどまっている」と述べてある。こちらの「ネットワーク社会」は、明らかにリアル社会と区別され、インターネット上のInternet societyあるいはサイバー上のCyber societyを指している。

実際、Network society中の「network」は、「Internet」でも「Computer network」でもなく、社会的ネットワーク（社会的関係で構成された構造）を指すものである。人間は友人、知人、恋人、学校や職場の同僚といった人間のつながりを持っており、これらは社会的ネットワークと称する。人類の社会はそもそも各種のネットワークで構成された。人と人、組織と組織、国と国はお互いの相互関係に存在し、独自で生存することができない。この中に、「人」は要素であり、人と人の「つながり」でネットワークを構成する。というわけで、Network societyの本来の意味は、社会的ネットワークで構成した社会のことである。

一方、違う言葉で同じあるいは近い意味を表すこともある。例えばCyber societyという単語は「ネットワーク社会」（中国語）に直訳する場合もあるし、「賽博社会」（中国語）に音訳する場合もある。それに、Network societyと区別するために、インターネット上で構築されたバーチャル・ワールドのことを表現する場合、Internet societyとCyber societyを含め、他にも「ネットワーク空間」（中国語、「Cyber Space」のこと）「デジタル社会」（中国語、「Digitized society」のこと）や「仮想社会」（中国語、「Virtual society」のこと）、「電脳ネットワーク社会」（中国語、「Computer network society」のこと）、「ネットワーク社区」（中国語、「Network community」のこと）「**虚拟社区**」（中国語、「Virtual community」のこと）など、多くの言葉が作られた。

簡単にまとめると、中国語の文献にある「ネットワーク社会」という言葉は大体2種類の意味がある。一つはNetwork societyである。社会的ネットワークのロジックを強調し、インターネットのことがリアル社会にある一種の社会的ネットワークと見られる。もう一つはInternet societyやCyber societyなどである。通信技術を基づいて、バーチャルやデジタルなどのような特

性を強調し、インターネット上で構築された仮想の社会として研究される。本稿では、「**ネットワーク社会**」に対して、情報通信技術を用いて多種多様な情報が流通される、インターネット上あるいはサーバー上で構築された仮想的なグローバル空間であることと定義し、以下は「**ネット社会**」と直訳する。「**Network society**」のことを単語の通りネットワーク社会と称する。

1.2 情報化社会との区別

日本語の文献では、よく「**情報化社会**」や「**高度情報化社会**」のような言葉で現代社会のことを表現する。情報化社会とは「社会的に大量の情報が生み出され、それを加工・処理・操作するための機構が巨大化し、人々の意思決定や行動に大きな影響を与えるに至った社会である（三省堂『大辞林 第三版』）。「**情報化社会**」と「**ネット社会**」は、実際に意味が近いし、場合によって混用することができる。例えば「**ネット社会の貢献**」は実際「**情報化社会の貢献**」でもあるし、「**インターネットの貢献**」とも言える。というわけで中国においては、「**ネット社会に対するガバナンス**」のことを、「**インターネットに対するガバナンス**」（**互联网治理**）や「**サイバースペースに対する浄化**」（**净化网络空间**）、「**ネットワーク環境を浄化する特別活動**」（**净网行动**）のように表現する場合もある。

定義からみると、「**情報化社会**」はインターネット技術を活用し、またインターネットに強く影響されたリアルな社会である。「**ネット社会**」はネット上のバーチャル・スペースである。両者の関係からみると、ネット社会が情報化社会に含まれている。ネット社会のことは情報化社会のことと見られることがあるけれども、情報化社会に存在する問題が必ずネット社会にも存在するとは言えない。例えば、**デジタルデバイド**¹や**ケイタイ依存**²、**コミュニケーション能力の低下**³などは、どちらも典型的な情報化

1 情報通信技術の利用機会および活用能力の格差のこと。コンピュータやインターネットなどの情報技術を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる、貧富や機会、社会的地位などの格差、または個人や集団の間に生じる格差と、地域間や国家間で生じる格差などを含む。

2 個人用小型通信端末（携帯電話、PHS、スマートフォンなど）の提供する機能・

社会の問題であるが、現実社会にしか存在しない。

2 ネット社会の特性

従来の社会を参照物にしてネット社会の特性を言えば、主にインターネットを活用していることとインターネットの活用により変わったことである。というわけで、インターネットが普及されてから、どのような変化が起こっているのかは肝心である。中国語の文献では、インターネットのことが、よく「諸刃の剣」（中国語は「双刃剣」という）であると、学者たちに呼ばれる。使い方しだいでは、便利な道具にも凶器にもなりえる。日本でも同じく、「光と影」のような言葉でネット社会のことを表現する。ネット社会のメリットもデメリットも、ネット社会の特性によって形成される。中国に於いて、ネット社会の特性は3つの部分で構成されている。

2.1 インターネット技術による基本的な特性

インターネットのそのものの特性は、主にリアルタイム（real time）、仮想化（virtual）、インタラクティブ（interactive）、分散化（decentralized）などがある。ネット社会に融合して、以下のような特性を持たされた。

1. 即時性

行為主体間のコミュニケーションは、時間と空間など自然要因の制約を受けない。IMソフトやソーシャル・アプリなどを利用して、何時でも何処でも誰とでもコミュニケーションすることが可能である。

2. 蓄積性

様々な情報がネット上で蓄積される。即時性を加えて、ネット社会の最も優れた特性になり、人々の生活を色々な便利をもたらした。例えば、夜

サービス（通話、電子メール、ゲームなど）を頻繁に、また長時間にわたって使用した結果、自分の意思でその利用を控えられず、常に操作していないと気が済まなくなる状態をいう。

- 3 コミュニケーション能力とは、表情や声のトーンなどをフルに活用し自分の言葉で相手に伝え、また相手の気持ちを読み取る能力である。相手の表情や反応がすぐには分からないメールやネット上でのやり取りでは、コミュニケーション能力はなかなか育たない。

中に何かの資料を調べようとする、インターネットさえ接続できれば、家にでもすぐに調べられる。インターネットがない場合、翌日に図書館など資料を保存する所に行くしかない。

3. 匿名性

行為主体のバーチャル化によって、現実的身分の匿名はネット社会の基本状態である。BBSやブログ、オンラインゲームなど人が集まった場所で、本名を使わずニックネームでコミュニケーションをすることが可能である。さらに技術手段を用いて、IPアドレスの匿名も可能である。

4. 対等性

インターネットの非中心化によって、ネット社会にある行為主体の間では、現実社会における身分、背景、階層などの違いを解消した。個人と個人、個人と組織、個人と政府はネット空間に於いて、身分も能力も、理論上でほぼ対等の状態に置かれている。

5. ストロング・タイ

以上の特性によって、ネット社会に於ける各個体が緊密に繋がって、強固な構造が形成した。

2.2 コンプレックス・ジャイアント・システム⁴としての構造特性

ネット社会の組織構造の本質はコンプレックス・ジャイアント・システムである。

まず、ネット社会を構成する基本的な行為主体が多い。CNNICの調査によると、2015年12月まで、中国インターネット利用者数は6.88億人に達した。実際、一人のユーザが普通いくつかのIDを持っているから、ネット社会にある個体はユーザの数よりずっと多いと思われる。

次に、ネット社会における主体の構成は複雑である。ネット社会の主体は、個人の他に各種の組織もある。趣味、観点、身分などによって形成さ

4 英語はComplex Giant Systemsという。規模が巨大で、構造が複雑のシステムのこと、システム分類法の一つである。例えば生物システム、生態システム、人体システム及び社会システムなどがある。

れた複雑なインターネット上の群落である。この複雑なネット組織は、現実生活中の組織の継続だけではない。地域、身分等の制約を受けないため、その複雑性は現実社会に比べて遥かに高い。

そして、ネット社会における行為主体間の関係は複雑である。現実社会におけるインタラクティブ関係はかなり複雑であるけれども、ネット社会ではネットワーク通信の利便性によって、現実社会になかなか存在しがたいインタラクティブ関係がネット社会で簡単に構成できる。理論上、ネット社会に於いて、任意の個体の中でコミュニケーションすることは可能である。個人も様々な形態の組織も含めて、複雑なインタラクティブ関係を構成している。

最後に、インターネットの基本特性がネット社会の複雑性を強めた。現実社会におけるコミュニケーションは時間や空間、身分、階層など様々な制約があるから、複雑性はネット社会に比べて低い。そして、匿名性などのインターネットの特性によって、ネット社会の複雑性をさらに強めた。コンプレックス・ジャイアント・システムの特性は多いが、ネット社会のガバナンスに深く関連する特性は主に以下の5点がある。

1. 分散性

コンピュータ・ネットワークは、「中央集中型」の形態を取っていたが、中央のホスト・コンピュータが故障・破壊されるとすべての通信が途絶えてしまうことがある。そこで、この解決策として、「分散型ネットワーク」が登場した。インターネットは、この「分散型」のネットワークとして発達してきた。システム全体はどちらかのノードを中心としてめぐって組織されたのではない。ネット社会に於いて、各行為主体は互に対等な立場で存在し、ネットワーク全体の運行を支配する「管理者」はいない。

2. 協調性

協調性は主にコンプレックス・ジャイアント・システムの運動機制を述べるものである。システムでは、他の部分をコントロールする中心制御部が存在しないため、システム中の活動は各ノードのインタラクティブに

よって形成されている。つまりネット社会に於いて、各個体はお互いに影響し活動している。

3. 自己組織性

自己組織性は協調性と深く関連している。ネット社会に於いて、大量の主体間のインタラクティブによって、ある程度の秩序と規律が形成してきた。

4. 不確定性

不確実性は以上の3点と深く関連している。ある程度の秩序が形成したにもかかわらず、数多くの行為主体、分散型組織形態および複雑なインタラクティブ関係によって、不特定な事件はどのように発展するのが確定できない。ネット社会に於いて、行為主体と活動の複雑性、情報の高度な流動性によって、ある事にかかわる情報、感情、意見及び発展などについて、はっきりと予想することができない。

5. 突然変異性

突然変異性は不確定性と関連している。ネット社会に於いては、ある事について世論が突然に集まってしまって、ネット上の群体事件になって、そして現実社会に影響を及ぼす事件まで発展していく可能性がある。

2.3 中国特有の特性

ネット社会は各国の政治、経済、文化、国民性などの差異によって、独特な特性を持つ。中国の場合は、主に以下の3点がある。

1. 多様性

中国におけるネット社会の分化性は、転換期に置かれている中国現実社会の反応であり、ネット社会の出現した独特なタイミングにもかかわっている。伝統の工業化社会で、より安定した社会構造、比較的一致した主流の価値観と社会規則が形成した。ネット社会が出現したら、比較的安定した構造が形成しやすい。中国のネット社会の出現は、農業経済から工業経済への転換に伴って進行したから、本来の価値体系が次々と変わっていく。

最も深刻なのは格差社会による各階層間の矛盾や社会に対する不満などの指摘がある。ⁱⁱⁱ他にも年齢差異によるジェネレーション・ギャップ⁵、また学歴、生活水準などによるデジタルデバイド⁶のような世界中に共通する問題を加えて、ネット社会における行為主体の間に、高度な分化性が現れた。

2. 衝突性と暴力傾向

衝突性は分化性にかかわっている。ネット社会における行為主体の複雑性と分化性によって、お互いに高度な対立関係が形成した。このような対立関係は、主に共通認識の欠くことで体现されている。しかも価値観の衝突を有効に解消する方法がないため、ネット社会におけるコミュニケーションは暴力傾向を持つ場合が少なくない。さらに、結局は現実社会の暴力活動にエスカレートすることも珍しくない。この点は、最近頻繁に爆発するネット暴力事件とネット上の衝突による現実的暴力活動の事例で証明できる。

3. 政治性

高度な政治性は、中国ネット社会の最も明らかな特徴として、ネット社会のガバナンスに深刻な困難をもたらした。中国ネット社会における高度な政治性はさまざまな要素にかかわっている。例えば、子供の頃から国家の出来事に関心を持つように教育するのは中国の伝統的な文化である。しかし重要なのは、公民の政治的な訴求を反映するルートに欠けている。つまり、公民は正常な政治規則や政治活動を通じて、意見を表明したり利益を訴求したりするのは困難である。正常な訴求チャンネルが通じない時、ネット社会は公民の政治的情緒をはかすプラットフォームになった。そのため、大量の政治的な言論がネット上で蓄積し発酵される。抑えきれない程度まで蓄積していくと、現実世界で衝突あるいは群体性事件の形で爆発してし

5 Generation Gap、世代（時代）による文化、価値観、思想などの相違のこと。

6 コンピュータやインターネットなどの情報技術を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる、貧富や機会、社会的地位などの格差。個人や集団の間に生じる格差と、地域間や国家間で生じる格差がある。

まう。

3 ネット社会の本質に対する見解

ネット社会の公共管理対策を検討する前に、まずネット社会の本質に対する見解をはっきりする必要がある。実際、ネット社会の本質に対する認識の差異によって、様々な管理対策が出てくる。ネット社会の本質に対して、主に以下の3種類の見解がある。

3.1 バーチャル・ワールド説

この観点は、ネット社会が興り始めた20世紀90年代頃に人気が高かった。ネット社会のことは、コンピュータとインターネットで構築された仮想の空間と思われ、現実社会と密接な対応関係が存在せず、ネット社会中の主体は完全にバーチャル化の形態で存在し交流すると見られる。この観点を支持する理由は以下の4点がある。^{iv}

1. 立脚点の違い

現実社会に於いて、人々は自然界の一部に属する。時間と空間に制約され、自然界に対する依拠性がより高い。一方、ネット社会は、コンピュータ・ネットワーク技術と施設を基に形成されたものである。人々が自らの科学技術文明を基づいて作り出した創造物であり、自然界の客観的な物質を直接に基にしない。そして物理的な時間と空間の制約を超え、新たな文化世界を作り出した。

2. 実質形態の違い

現実社会に於いて、自然存在物及び人類の創造物などは、原子を単位にする具象物質であり、人間は感覚器官や化学道具を通じて直接に感知することができる。また、物質の移動と複製、再生能力などの面では、自然界の規則に強く制約されている。

ネット社会に於いて、すべてはデジタル化され、bitを単位にするバー

チャル物質である。体積、質量、密度、温度など自然の物理的属性はなく、伝送が速く、複製も再生能力も強い。

3. 活動方式の違い

現実社会に於いて、人間の活動は物質手段とキャリアは人の主体性を対象化の感性的活動は、人間と自然との認識の基礎中目的性の改造活動。自分と自然の能力を分けて、そのような活動の局限性：大きい程度の上で自然性の依存に対して、説明して実行する内在性はまだ熟していないと完備していることを説明することを説明しました。一方、人自身の自然性の依存；一方、直接自然事物と自然法則について。

4. 主体の思想意識、価値観、考え方及び社会規範の差

コンピュータ・ネットワークは、情報製品の実質形態や人間の実践活動の方式などを変えただけではなく、人間の精神世界も改造した。コンピュータ・ネットワーク技術上の分散式開放性、バーチャル性、インタラクティブ、ノンリニアリティ、非平衡性、自己組織性などの特徴に対応し、人の生存に自主創造性、自由で平等性、開放性、発散性、網状付き合いなどの特徴。したがって、思想の意識や価値観を確立に、主体の独立性意識、創造性意識、開放性意識、民主的意識、協調性意識など、自主創造能力の発揮を存分に披露と。コンピュータ・ネットワーク社会の中で、個人から出発して、形成時の向こうの共時性関係から出発し、全体では、形成網状の意味全体ということによって、コンピュータ・ネットワーク社会内部レオロジー中を緊密にインタラクティブに競争と調和の有機的な統一を係統の自己組織化プロセス。これは人々は思惟にシステム思考、ノンリニアリティ思考、アドバンスド思考など思想方式を確立すると考えている。

バーチャル・ワールド説の核心は、ネット社会は独立して存在することを主張する。現実社会との関連がなく、全く違う形態で活動するバーチャル・スペースであると考えている。そのため、ネット社会の行為は現実社会に対する影響は極めて限度が低い。そしてネット社会に於いては、現実社会のように主体の行為に対して束縛する必要がない。

バーチャル・ワールド説の対応する基本的価値観は、ネット社会は独立なシステムであり、自由放任の態度をとるべきである。そのため、ネット社会の自由を強調し、ネット実名制の実行やインターネット関連法律の制定、ネット上の行為で制裁されることなどを反対する。完全な放任と自由の尊重はバーチャル・ワールド説の管理理念である。

典型的な例を挙げると、1996年2月にインターネット上の猥褻情報を規制する通信品位法（Communications Decency Act）が米議会で可決される。それに対して、ジョン・ペリー・バーロウ（John Perry Barlow）はスイス・ダボスにて「サイバースペース独立宣言」（A Declaration of the Independence of Cyberspace）を発表し、法案成立に抗議を行った。以下の内容は、当宣言の一部である。

「産業社会の諸政府よ、肉体と鋼鉄の巨人よ、私は精神の新しい本拠、サイバースペースから来た。過去の人、あなた方に言おう。私たちににかかわるな。あなた方は私たちには歓迎されない。私たちの集うところに、あなた方の主権は及ばない」^v

3.2 リアル社会延伸説

バーチャル・ワールド説と正反対のリアル社会延伸説は、ネット社会のことを通信手段の進歩しか思わない。伝統的な通信ネットワーク、電話などと実質的な区別はないと主張する。いわゆるインターネット上のバーチャル・コミュニティは、表面から見れば、多数のコンピュータが「ノード」（node）として、インターネットによってつながられたが、実際は実質社団と同じ、社会的ネットワークの社会関係を創造・維持する手段の一つに過ぎない。インターネットは、一種の社会的ネットワークであり、ネットワーク社会ロジックの縮図であるとも言える。ネットワーク社会のロジックからみると、両者とも人間関係に関する社会的ネットワークに属する。ただインタラクティブの方式と特徴が違っただけである。^{vi}というわけで、ネット社会もただ現実社会の延伸に過ぎない。

リアル社会延伸説の核心は、ネット社会の独立存在状態を根本的に否定する。ネット社会は現実生活の延長と投射であり、現実社会と根本的な差異がない。ネット社会は現実社会の需要を反映し、ネット社会での活動も実際的な行為を反映するから、独立して存在するシステムとは認められない。そのため、ネット社会に於いても、現実社会と同じように行為主体の行動を厳しくガバナンスすべきであると主張する。

ネット社会はただ現実社会の延伸であると思われるから、相応の管理理念は現実社会にある管理手段をネット社会に厳格に応用すべき、ネット社会にある行為主体は自らの行動に責任を負うべきである。具体的な管理策はネット实名制、ネット上の情報に対する審査とコントロール、ネット社会に対する監督・管理の強化及び立法などを含む。中国語の文献は、ほとんどネット社会に対して監督・管理の強化や立法などを主張する。

3.3 バーチャル社会とリアル社会の混合形態説^{vii}

何哲の研究によると、ネット社会は大量のリアル社会生活の要素を体現しているから、完全に独立したバーチャル社会ではない。また、リアル社会の活動と全く違う特徴は確実にいくつかが存在しているから、完全にリアル社会の引き続きとも言えない。ネット社会はデジタルで構築されたバーチャル・ワールドとリアル社会の共生形態であるという（以下は混合形態説と称する）。

混合形態説の立場でネット社会の本質について分析すると、社会自身の組織形態と活動の展開の2つの方面から述べられる。

まず、ネット社会はストロング・タイの組織形態であり、その強さは、人類歴史上に前例がないと言われる。人間は友人、知人、恋人、学校や職場の同僚といった人間のつながりを持っており、これを社会的ネットワークという。お互いのコミュニケーションの頻度などによって、ストロング・タイとウイーク・タイと分類される。農耕時代に原始通信手段で構築されたリンクは弱かった。工業時代に電話や電報など通信道具の利用で構築さ

れたリンクはより強くなった。情報化時代にはいつから、インターネットという新たな通信技術によって、個体間で即時的なストロング・タイが構築できた。つまり人類社会の発展は、ウイーク・タイからストロング・タイへの歴史であると言える。論理上、ネット社会では、任意の個体間で直接的なリンクを構成することができる。その上、六次の隔たり理論(Six Degrees of Separation)⁷という仮説のような形式で、人類社会の構造がより緊密な形態で再建された。

次に、ネット社会は人類社会にとって新たな活動と存在形式である。ネット社会では、従来の現実に基づいて行われる伝統的な政治活動や経済活動、社会活動などの形式が、インターネットの利用によって再構築された。それだけではなく、ネット社会は人間の新たな存在方式でもある。新たな社会交際方式を通じて、ネット上の個体に社交存在感を提供する一方、最新のVR⁸技術を通じて、個体に時間と空間の現実感を知覚させる。さらに両者はお互いに強化し、インターネット上の現実存在感が固められる。ネット社会では、人類が初めてリアルな物理的な世界から大幅に離れて、人類の存在はリアルの存在とバーチャルの存在を超え、新たな混合存在状態になる。

おわりに

率直に言って、もしネット社会のことが現実社会に影響を与えないと、公共管理機構は当然ネット社会での出来事を無視しても構わないし、ネット社会に対してガバナンスする必要もない。しかし前述の通り、現実社会の秩序はネット上の活動に深くかかわっている。近頃、群体性事件に関する議論や組織、動員などの活動はネット上で行われる傾向がある。それに、

7 全ての人や物は6ステップ以内で繋がっている。

8 全称はVirtual Reality、コンピュータ上に作られた世界を現実のように知覚させる技術である。日本語では「人工現実感」あるいは「仮想現実」と訳されることがある。

元々一般的な群体性事件が、ネット社会の各特性によって、全国範囲ひいては国際的な事件になることも珍しくない。現実社会の安定を保つために、ネット社会に対するガバナンスについての研究は緊迫で重要である。インターネットの利用を避けられない現代社会に於いて、如何にネット社会の秩序を規範するのは課題になる。

参考文献

- I 裘伟廷「“网络社会”概念刍议」『宁波广播电视大学学报』, 2005, 3(1):1-5
- II 王冠「“网络社会”概念的社会学建构」『学习与实践』, 2013(11):116-122
渡辺剛「調和社会と都市部における「群体性事件」」『現代中国の政治的安定』, 2009, (3):15
- III 刘友红「人在电脑网络社会里的“虚拟”生存——实践范畴的再思考」『哲学动态』, 2000(01)
- IV 名和小太郎「サイバースペース論争」『情報管理』, 2009, 52(9):566-567
https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/52/9/52_9_566/_pdf
- V 郑中玉, 何明升「“网络社会”的概念辨析」『社会学研究』, 2004(1):13-21
- VI 何哲「网络社会的基本特性及其公共治理策略」『甘肃行政学院学报』, 2014(3):56-66

